鴻巣市立大芦小学校　学校だより　令和６年　２月２９日

おおあし

第１１号

《 大芦小ＨＰ https://oashi-e-konosu.edumap.jp/ 検索 》

「ありがとう」の花を咲かせよう

早いもので、今年度の教室で過ごす日々もあと１月余りとなりました。暖冬の影響からかずいぶん早くに梅の開花の便りが聞こえ、きっと桜前線もあっという間に北上し、もう間もなく華やかな春の訪れが実感できるのではと期待しております。この時期は１年間のまとめをしっかりと行い、次の学年に向けて希望をもたせ準備をする期間となります。卒業・進級を控えての大切な残りの日々、今後とも変わらぬご支援･ご協力を賜れますよう何とぞよろしくお願いいたします。

さて３学期間を通して、目標として掲げられるテーマの１つに「感謝」があります。「感謝の気持ちは心にしまっておくだけでは伝わりません。おはようございます。など、挨拶等を通じてきちんと言葉で伝え、感謝の気持ちを表しましょう。」と指導してきました。子どもたちは自分たちの登下校を見守ってくださる方々や給食調理員の方々､先生方､そして家族､また高学年のお兄さん､お姉さんなど、たくさんの方々に助けられ、支えられてきたことはよく分かっているようです。ですから言葉に発していない子も「ありがとう。」という感謝の気持ちをもっていない訳ではありません。逆に言葉を発したからといって感謝の気持ちを表せたかというと、その態度や振る舞い等によっては必ずしもそうでない可能性も出てきます。「感謝の気持ちを素直に表現させようとする」このテーマは、個々によって差も出てしまうことですし、全体に浸透させるためには意外と難しいことだなと感じております。

私が小学校卒業を迎えたときのことです。登校してから式が終わるまでは、全く普段と変わらない心境であったと思います。いや、あえて平静を装い、「卒業してしまうのだ」という現実を受け止めようとしていなかったのかもしれません。式が終わり、校門の前で級友らと集まって談笑していました。すると担任の先生が顔をしわくちゃにしながら一人一人に歩み寄ってくださり、私にも労いや感謝の言葉をかけてくださいました。そのとたんに感情が溢れ出し、今自分がこうして巣立つことができるのも､実に様々な方々に後押しされてきたからだということをようやく認識します。号泣して取り乱すような自分の姿を見せないよう必死に耐えながら､言葉少なに先生に対しての思いを述べたことを記憶しております。このような気持ちを表すことが苦手な私は、こんな究極な局面にでもならなければ、本当の自分を出すことが困難だったのかもしれません。感謝の気持ちを伝えるにはもちろん言葉があった方がいいでしょう。支える側もそう意識したいものです。

３月は､「ありがとう。」を届けたい人に届けられる機会が多く設定されています。普段は面と向かってなかなか上手に表現できない児童にも､こういった節目にこそきちんと思いが伝えられるようにさせていきたいと思います。そしてその「ありがとう。」は、見返りを求めるような心であってはなりません。素直で純粋に自分の思いを届け、「恩送りにつながっていくありがとう」を多くの方々に届けさせるようにしていきます。

「ありがとうの花」（作詞・作曲　坂田おさむ）という歌があります。

♪　～ありがとうの花が　咲くよ　君の街にも　ほらいつか　みんなが歌ってるよ～　♪

間もなく令和5年度が終わります。春の訪れと共に美しく咲く花々に負けないよう、大人も子どもも、学校や街中にも、「ありがとうの花」が咲き誇ることを願っています。今年度も本校の教育活動に多大なるご理解､ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。　（校長　横尾　臣）